

本日の聖書の箇所は結婚がテーマとして選ばれております。旧約聖書にありましたように、結婚は人間が罪を犯す前に神が定めた尊いことであり、聖書にも至る所にこれを尊ぶべきことが教えられております。また皆様もよく御存知のように、カナで婚礼があった際、主イエスは水をぶどう酒に変えるという、初めて奇跡を行われて結婚を祝福されました。本日の聖書の箇所からは、結婚とはどういうことなのか、聖書はどう教えているかを学んでみたいと思います。

主イエスは結婚についてこう教えられています。「天地創造の初めから、神は人を男と女とにお造りになった。それゆえ、人は父母を離れてその妻と結ばれ、二人は一体となる。だから二人はもはや別々ではなく、一体である。従って、神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない」。

まず結婚とは一体であるということです。すなわちお互いが向かい合っているのではなくて、同じ方向を向いて人生を歩んでいく、そういう姿を現すものであるということです。結婚式ではよく仲人がたてられますけれども、教会で行われる結婚式では仲人は原則としてたてられません。何故ならば結婚は神が合わせられたものであるからです。自分の意思を通して神が合わせられた、結婚とはそういう出来事であると受け止めているのです。従って仲人は神ご自身であり、この世の巡り合わせや人為的な事柄だけで成立することではないと聖書は語っているのです。教会で結婚を希望される方は、信徒の方はもちろん、信徒でない方も教会で結婚式を行うことが可能ですが、その際には聖書の教える結婚についてよく学んでいただき、自分の中に働く神の御心をしっかりと聞いていただくようお勧めするのです。

本日の福音書の箇所では、ファリサイ人たちがモーセが離婚を許可したとって議論をしかけておりましたが、主イエスは、離婚が許可されたのではなく、神に忠実でないあなたがたのために、やむを得ずモーセが人びとを導くためにそう定めたのであって最初からそうではなかったことを教えております。そういうわけで結婚はかるがるしくなすべきことでなく、十分な準備の後、神の御心をしっかりと聞きながら決断していくことであるのが示されております。

しかしながら結婚は人間が行うことであり、最初から完全はありえません。また弱く罪を犯しながらしか生きて行けない人間は、困難な状況に陥ることも

あります。そのような際、神の大きな恵みを祈りながら道を探っていくことは必要でありましょう。神はすべての人を愛しておられますから、教会が、また教会に集う人びとが糾弾したり非難してはなりません。すべての主の示されるままに歩いていくべきであります。そして私達は常日頃から、すでに結婚した人も、未来に結婚の日を迎える人びとも、聖書の教えを学びつつ、神の助けを得ながら御心にかなう日々を過ごすことが必要でありましょう。結婚は神が人間を愛しておられる証であり、人間が神の助けを得つつ歩いていく存在であることの証でもあるのです。